令和6年度（令和5年度対象）

教育委員会点検評価報告書

淡路市運動公園多目的広場

竣工　令和６年３月

令和６年９月

淡路市教育委員会

『淡路市のめざす教育の姿』

【基本理念】　ふるさと淡路を創る　　～未来に輝く人づくり～

教育大綱	教育振興基本計画	教育方針
重点目標	**重点事業**	
人づくり （心豊かで調和のとれた人の育成）	・キャリア形成の支援と国際化に対応した教育を推進する ・道徳教育・体験活動を充実し、豊かな人間性や社会性を育む ・人権感覚に満ちた人づくりに努める	
学校・園づくり （安全で信頼される教育環境の充実）	・基礎的・基本的な知識・技能と、思考力・判断力・表現力等を伸ばし、主体的に取り組む態度を養う ・教育研究活動活性化事業「あいプロジェクト」「学びイノベーション事業」を発展充実させる ・自尊感情を育む人権教育を推進する ・地域と連携した防災教育を推進する ・学校保健を充実し、生涯にわたる健康の基礎を培う ・食育を通じて健康な心と身体を育成する ・共に生きる社会をめざす特別支援教育を推進する ・子どもの安全を守る体制、教育環境・施設の充実を図る ・教育センターの機能を充実し、教育課題の解決を図る ・生徒指導体制を整備・充実する	
地域づくり （「オール淡路」で取り組む子育て支援）	・青少年健全育成を市民ぐるみで推進する	
生きがいづくり （文化・スポーツ振興を通した生涯学習）	・スポーツ活動を振興する ・生涯学習の機会・環境を充実させる ・図書館のサービス体制を充実させる	
ふるさとづくり （郷土を守り、未来に生かす淡路市の教育）	・芸術・文化活動を振興する ・文化財を適切に保存、積極的に活用する ・ふるさとを学び、地域社会に対する誇りと愛情を育む	

も く じ

もくじ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

◆学校教育

１．キャリア形成の支援と国際化に対応した教育を推進する
　　基礎的・基本的な知識・技能と、思考力・判断力・表現力等を伸ばし、主体的に
　　取り組む態度を養う
　　共に生きる社会をめざす特別支援教育を推進する・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

２．自尊感情を育む人権教育を推進する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

３．道徳教育・体験活動を充実し、豊かな人間性や社会性を育む・・・・・・・・・・・・４

４．地域と連携した防災教育を推進する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５

５．ふるさとを学び、地域社会に対する誇りと愛情を育む・・・・・・・・・・・・・・・６

６．子どもの安全を守る体制、教育環境・施設の充実を図る・・・・・・・・・・・・・・７

７．教育研究活動活性化事業「あいプロジェクト」「学びイノベーション事業」を
　　発展充実させる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

８．学校保健を充実し、生涯にわたる健康の基礎を培う
　　食育を通じて健康な心と身体を育成する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９

◆社会教育

９．スポーツ活動を振興する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０～１２

１０．人権感覚に満ちた人づくりに努める・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３～１４

１１．生涯学習の機会・環境を充実させる
　　　図書館のサービス体制を充実させる・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５～１６

１２．青少年健全育成を市民ぐるみで推進する・・・・・・・・・・・・・・・・１７～１８

１３．芸術・文化活動を振興する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９

１４．文化財を適切に保存、積極的に活用する・・・・・・・・・・・・・・・・２０～２１

総評・その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２

※２ページ以降の表中に記載している「担当課」は、点検・評価を担当した課を示しています。

１．キャリア形成の支援と国際化に対応した教育を推進する
基礎的・基本的な知識・技能と、思考力・判断力・表現力等を伸ばし、主体的に取り組む態度を養う共に生きる社会をめざす特別支援教育を推進する

【重点目標】①グローバル社会を生き抜くための資質・力の育成に努める
②児童生徒それぞれの興味・関心等に応じて学習課題を設定し、自ら学び考える力を育てる
③多様な教育的ニーズに応じた教育の充実、関係機関との連携による支援の充実を図る

事務事業名等	事業内容	評　価 成果・課題及び今後の対応等	担当課
特別支援教育支援員配置事業	インクルーシブ教育を充実させるため、特別な支援を必要とする児童生徒が在籍する学校に支援員を配置し、児童生徒に応じたきめ細かな支援ができるようにする。 （令和5年度は支援員を小学校8校22人、中学校5校10人、看護師を小学校1校中学校1校に2名を配置）	【成果】 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた支援をすることができた。また、支援員と教員が連携し、個に応じた関わりを工夫することで、児童生徒のニーズに応じたきめの細かい支援を実現できた。通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒に対しても、困り感に沿う支援ができた。 【課題】 通常学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒は、増加傾向にある。引き続き、適切な支援員の配置に努める。	学校教育
ひょうごがんばり学びタイム	基礎学力の定着及び向上に向けて、全国学力・学習状況調査結果の分析・検証及び県が提示する重点取組内容に基づき、小中学校において、基礎学力に課題が見られ、個別の支援が必要な児童生徒に対して、地域人材を活用した授業中や放課後の学力向上方策に取り組む。また、不登校児童生徒の支援も行う。 （令和5年度は 小学校9校、中学校4校で実施）	【成果】 児童生徒それぞれの課題に寄り添い支援を行った。授業中の同室指導、放課後の個別指導等多様な形態で、理解度に合わせた教材を提供し、能動的に学ぶ姿勢や意欲を育成した。不登校生の学習支援では教室に入室しづらい児童生徒への別室支援等による関わりが効果的であり、少しでも学びを進めたい児童生徒の心情と実情に寄り添った教育ができた。 【課題】 講師、学校職員の適切な情報共有が必要であるが、十分に時間を取ることができないケースが多く、報告、連絡、相談の工夫が必要であった。また、指導者である地域人材の確保も困難である。	学校教育
外国青年招致事業	小中学校における英語教育の充実を図るため、外国語指導助手（ＡＬＴ）を8人配置する。小学校における外国語科、外国語活動及び中学校英語科の授業においてチームティーチングを行い、児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。	【成果】 各小中学校にＡＬＴを配置し、週1度以上は、ＡＬＴによるネイティブ発音に触れる授業を受けることができるようになっている。また、各校の工夫で、児童生徒の生の英語コミュニケーションによる機会が増え、英語に慣れ親しむ土壌ができている。授業内外で、ＡＬＴに自分の英語が通じたときやＡＬＴの話す英語が理解できたときの喜びが英語学習の意欲につながっている。 【課題】 授業準備のための打ち合わせの時間や児童生徒理解のための時間の確保が課題である。また、児童生徒が、英語に触れる機会を確保することの工夫や、英語をより深く学びたくなるような授業デザインのための研修等も必要である。	学校教育
［学識経験者の意見］	○通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒のために支援員を配置し、困り感に寄り添う支援等の取組がなされています。今後も学校と連携を取りながら、適切な支援員の配置をお願いします。その中で、中学生になると、学校での指導には、限界があると思います。そのため、専門的に学ばれた指導者のいる支援学校の説明や内容等を情報提供し、保護者への説明・理解をいただきながら、特別な支援を要する児童生徒の日常生活が豊かに暮らしていける取組の強化をお願いします。ひょうごがんばり学びタイムでは、基礎学力の定着、向上に向けた課題が見られ、必要な児童に対し、個別指導を行っていただいています。指導者の確保が課題となっているようですが、地域の人材の掘り起こし等、積極的に人員を確保し、市内全校に配置をお願いします。外国青年招致事業は、英語や外国の文化、習慣に触れる機会であり重要と考えます。 ○特別支援教育支援員配置事業では、支援を要する児童生徒に寄り添った取組がされており、児童生徒が安心して生活できる環境となっています。引き続き、人員配置の適切な配置と活用をお願いします。ひょうごがんばり学びタイムの趣旨を生かした取組がされていて、児童生徒の授業への参加意欲が、育まれています。地域のネットワークにより、人員確保ができるようになることをお願いします。外国青年招致事業は、特に、英語でのコミュニケーションができるようになることで喜びとともに、異文化への興味も出てきます。より、多くの児童生徒の興味、関心が高まり、淡路市に住む外国籍の人たちとも交流ができるようになればありがたいです。		

２．自尊感情を育む人権教育を推進する

【重点目標】①一人一人の自尊感情を高め、自己実現と共生をめざす人権教育を推進する
②人間的なふれあいを通して、心の絆を深める生徒指導の充実を図る

事務事業名等	事業内容	評　価 成果・課題及び今後の対応等	担当課
人権教育授業研究の実施	各校において人権教育上の課題を共有し、教育活動実践に当たっての工夫改善のための情報交換を図っている。	【成果】 推進に当たっては、授業や学校教育活動全体を通じて、児童生徒一人一人が自尊感情を高め、自他共に尊重し合う人間関係を築く力を培うことができるよう取り組むことができた。公開授業を実施し、発達段階に応じた指導内容及び指導方法の工夫を行い、指導の改善等について、学校間の情報共有を図ることができた。 【課題】 第２次淡路市人権まちづくり基本計画を進める中、インターネットによる人権侵害、外国人、多様な性等、現代的な人権課題に応じた研修の充実や市内の実践の共有を図る。	学校教育
［学識経験者の意見］	○令和５年度淡路市の教育方針「５　自尊感情を育む人権教育を推進する」に、「命と人権を大切にする教育を推進します。」とあります。引き続き、児童生徒一人一人の命を守り、自尊感情を高め、発達段階に応じた指導内容の工夫、学校間の情報共有をお願いします。また、インターネットによる人権侵害や多様な性、いじめ等、人権課題に応じた指導方法の工夫についても、情報共有が進むことを期待します。 ○世界から見ても、日本の児童生徒の行動は、素晴らしいものがたくさんあります。これも、学校での教育の成果であるといえます。学校現場での日々の取組に感謝します。特に、他人を思いやる力は、すべての児童生徒がもっています。課題が、多様化していますが、小さな課題であっても放置せず、人権課題解決に積極的に取り組んでいただくようお願いします。		

３．道徳教育・体験活動を充実し、豊かな人間性や社会性を育む

【重点目標】①児童生徒の内面に根ざした道徳性の育成に努める
②体験的・実践的な活動を通して、よりよく生きるための基本的な心構えや行動の仕方について学ばせる

事務事業名等	事業内容	評価 成果・課題及び今後の対応等	担当課
自然学校推進事業	小学校5年生が4泊5日で学校や家庭から離れ、豊かな自然の中で集団生活を通して仲間との協調性や自主性を育む。 事業費　4,953千円 実施期間　10月中に5日間 参加人数　377人 実施場所　青少年交流の家	【成果】 豊かな自然の中での集団生活を体験するため、市内全校が5日間の宿泊体験活動を行った。経験を通じて、児童一人一人が自己効力感を育み、集団の中での役割を果たし、主体的に判断し、仲間と共に、より良く過ごす喜びを味わうことができた。 【課題】 指導員と救急員の確保が困難である。また、教員の人数の関係から、負担の偏りがないよう、活動プログラムやサポート体制を工夫するなど、組織的な指導体制の構築が必要である。	学校教育
地域に学ぶトライやる・ウィーク推進事業	中学2年生が5日間、学校を離れて地域の事業所等で職場体験活動や奉仕体験、文化活動体験等に取り組む。 事業費　2,090千円 実施時期　5月15日～5月19日 参加生徒数　311人 受入事業所数　115か所	【成果】 令和5年5月8日、新型コロナ感染症が感染症法上の第5類になった直後の活動であったが、市内全校が5日間の活動を予定どおり行った。受入事業所が前年度より10か所増加し、生徒にとっては、社会が自分たちを受け入れてくれることをより実感でき、自信を持って未来に向かう良い機会となった。 【課題】 今後も、生徒が希望する活動が行えるよう、既存の事業所に協力頂きながら、新規受入事業所の開拓が引き続き必要である。	学校教育
環境体験事業	小学3年生を対象に、環境に関わるテーマを定め、年間を通して、自然の中での体験活動を実施する。自然観察や栽培・飼育等の体験活動を通して、命と環境の大切さを学ぶ。 事業費　2,017千円 実施校数　11校（15学級）	【成果】 地域の自然と触れ合う活動を通じて、地域の人や専門家の指導の下、淡路市の豊かな自然の中で楽しみながら、生命の不思議さに触れ、ふるさと意識を育むことができた。 【課題】 地域指導者や環境教育の専門家の継続確保が重要である。また、学校と地域指導者・団体との連携により、多様な活動を工夫することが必要である。	学校教育
青少年芸術体験事業 （「わくわくオーケストラ教室」バス利用補助事業）	中学1年生を対象に、本格的なオーケストラ演奏に親しむ機会を設け、芸術文化への興味関心を高めることにより、豊かな情操、感性を身に付けた人材の育成を図る。 事業費　1,103千円 実施校数　5中学校 実施日　6月、9月	【成果】 島内にはない文化施設を訪問し、本格的なオーケストラの生演奏を鑑賞することができた。感受性が育まれる成長段階において、豊かな芸術に触れる貴重な体験となった。 【課題】 淡路島内3市の実施時期が重なることから、毎年、島内バス会社でのバス手配が難しくなっている。	学校教育
［学識経験者の意見］	○体験活動は、子どもたちにとって貴重な体験であり、自然学校では、参加した児童は自主的な判断、経験を通してより成長できたものと思います。トライやる・ウィーク推進事業では、受入事業所の増加で、働くことの大切さを実感できる機会の選択肢が増えたことは、大変良かったと思います。環境体験事業は、自然観察や栽培体験ができる機会であり、地域との連携を密にし、活動の継続をお願いします。わくわくオーケストラ教室についても、プロの生演奏に触れる貴重な体験機会ですので、継続実施してほしい事業です。 ○体験活動は、自然に対する畏敬の念や人に対する感謝の気持ちを育む上で大切なものです。活動はもとより、それに関わる準備や事後指導に多くの時間が使われます。働き方改革の中、工夫して行われていることに感謝申し上げます。児童生徒の心に残る取組であり、人間関係や自然と接し、体験することで多くの学びを獲得できています。わくわくオーケストラは、生演奏に触れる貴重な体験となっています。関係者の皆様の苦労は大きいですが、児童生徒の笑顔のため、今後も継続して、充実した活動になるよう願っています。		

環境体験活動より（石屋小）

トライやる・ウィーク（東浦中）

４．地域と連携した防災教育を推進する

【重点目標】①学校・園における防災教育を充実する

事務事業名等	事業内容	評　価 成果・課題及び今後の対応等	担当課
「学ぼう災教育」の展開事業	安全で安心な社会づくりに貢献する意識を高め、また、災害から身を守ることのできる人を育てることにより、周りの人々や次世代の子孫等へ防災意識をつなげ、「持続力のある防災」を実現するため、防災教育や防災研修を実施する。	【成果】 令和５年度から県の助成事業の統合が行われ、「ひょうご安全の日推進事業」として新たに行われることとなった。学校現場においては、県の動向にかかわらず、防災教育を着実に進めることができた。 今年度、全校が危機管理マニュアルの見直しを行った。地域との連携による防災訓練、県教育委員会の防災教育専門推進員や語り部等による防災講演会の実施、防災マップの見直し等、児童生徒の防災意識の向上を図ることができた。 【課題】 海岸沿いを通学路としている学校も多く、南海トラフ地震を含む各種の災害から身を守ることのできる人を育てるとともに、「持続可能な防災」につなげることが大切である。	学校教育
防犯情報システム（こどもあんしんネット）活用事業	各学校の行事予定や不審者、不審電話、事件情報等、学校安全に係る情報を希望する保護者のスマートフォンや携帯電話に配信する。 登録者数：4,529人（令和6年3月時点）	【成果】 多くの保護者が登録を行っており、警報発令時等、緊急時の連絡や注意喚起を一斉配信することで、いち早く、保護者へ情報提供ができた。また、学校行事等の様子（写真含む）の配信も各校において定着し、情報発信の重要なツールの一つとなっている。 【課題】 登録データを効果的に活用し、業務改善につなげることが必要である。そのため、各校の活用方法について、情報共有を図ることが必要である。	学校教育
［学識経験者の意見］	○地震や台風、大雨など自然災害発生頻度が増加しているように感じます。昨年、地元小学校の防災訓練に参加させていただきました。避難訓練では、先生の指導により整列して静かに迅速に避難場所まで歩いて行きました。日頃の訓練の成果だと理解しました。参加をして、自分の命は自分で守る意識が再認識されたと思います。災害は、必ずくるものとの認識で、地域と一体となって持続可能な活動を希望します。こどもあんしんネットは、多くの保護者が登録されています。今後も、継続して情報発信を図っていただけるようお願いします。 ○阪神・淡路大震災以降も、大地震、津波、線状降水帯による豪雨、猛暑、突風など大きな被害をもたらしています。また、多くの人命も奪われています。マイ避難カードの取組は、素晴らしいものです。児童生徒の防災意識が高まっていることに敬意を表します。防犯情報システムへの登録者数が令和4年度より約５００人増加していることは情報をより多くの人に届けられる点で評価できます。防犯情報システムにおいて、各校の活用方法の情報共有を図れるようお願いします。		

避難経路確認「マイ避難カード」（浦小）

５．ふるさとを学び、地域社会に対する誇りと愛情を育む

【重点目標】①特色ある教育課程を編成し、特色ある学校づくりを進める
②学校評価システムを確立し、地域・保護者に信頼される学校づくりを進める

事務事業名等	事業内容	評　価 成果・課題及び今後の対応等	担当課
学校評議員の設置	各学校に地域の方々からなる学校評議員を組織し、学校経営方針等の教育目標達成のための方向性について示唆をいただいている。	【成果】 コロナ禍後の教育活動について、学校の状況を学校評議員に理解いただき、学校としての説明責任を果たす貴重な機会となった。また、学校と地域が一体となり、「どのような地域社会で、どのような子どもを育てたいのか」という共通の目標を目指す学校・地域の共通の場づくりの礎となる役割を果たした。令和6年度は、第4期教育振興基本計画（文科省）で示されたコミュニティ・スクールの導入のため、北淡小学校をモデル校として、導入を予定している。 【課題】 学校と学校評議員による「開かれた学校」づくりから、更に「地域と共にある学校」づくりへと推進するため、コミュニティ・スクールの在り方について研究を深めていく。	学校教育
学校評価の実施	学校が1年間の取組を自己評価し、次年度への改善点を明らかにする。また、学校関係者による外部評価を行い、学校運営に反映する。評価結果は、教育委員会に報告するとともに、保護者等に学校だより等で公表する。	【成果】 全ての学校において、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施、報告、結果の公表、教育委員会へ報告が行われている。評価結果に基づく改善点の検討を通して、教育活動その他の学校運営の改善を図るＰＤＣＡサイクルが確立している。 【課題】 地域や保護者に対し、積極的な報告や情報発信等を行うことで、保護者、地域住民の教育活動への参画を促し、児童生徒を共に支え育てる「パートナー」としての意識を一層高めたい。	学校教育
オープンスクールの実施	授業をはじめ給食や掃除、部活動、行事等、学校の教育活動全般を保護者や地域の方々に公開する。	【成果】 ポストコロナにおいて、実施形態を工夫し、安全を確保しつつ、学校規模や実情に応じて開催できた。児童生徒の様子を保護者に参観いただけたことで、教育活動への理解を深め、開かれた学校づくりを進めることができた。オープンスクールを通じ得た地域の声を取り入れ、教育活動の改善に結び付けていくことが可能となった。 【課題】 地域住民が学校に関わることができるように、周知方法の工夫を行う。開かれた学校づくりには、同時に、不審者対策の課題が常にあるが、地域の結び付きを強固にし、地域総がかりで学校を見守る体制にすることが重要である。	学校教育
就学援助事業	市就学援助規則に基づき、就学援助認定を受けた世帯に対して、学用品費、給食費、修学旅行費等の助成を実施した。 準要保護児童生徒数320人 さらに、令和5年度から特別支援学級に就学する児童生徒についても、市特別支援教育就学奨励費支給規則に基づき、学用品費、給食費、修学旅行費等の助成を実施した。　（就学援助との同時受給は不可） 特別支援児童生徒受給者数45人	【成果】 経済的理由により、就学が困難な児童生徒が安心して就学し、学校生活が続けられるように、的確な運用とその充実が図られた。小中学校においては入学前に入学準備金を支給している。特別支援学級に就学する児童生徒についても、同様に、運用、実施できた。 【課題】 物価の高騰やコロナ禍による社会不安を背景に、生活困窮世帯及び母子家庭が依然として多く、継続した扶助を必要としている。	学校教育
［学識経験者の意見］	○学校評議員は、学校の状況を理解し、学校と家庭、地域が連携し、地域全体で子どもを見守り育てる学校づくりを進めていただきたいと思います。学校評価の実施では、学校が行う自己評価、学校関係者による外部評価結果を地域や保護者に公表・報告することで、児童生徒を共に支える・育てる取組となっています。オープンスクールは、児童生徒の様子を保護者が参観することで、開かれた学校作りが進められています。地域も学校に関わり、一体となった活動を期待します。就学援助事業では、生活困難世帯の児童生徒が、就学し、学校生活が続けられるよう、引き続き、適切な運用・扶助をお願いします。 ○昨今の経済状況で、教育費に占める割合が増加し、家計を圧迫している状況の中、就学援助事業は、非常に役立っていると評価できます。さらに、特別支援学級に就学する児童生徒にも助成が行われることになったことも、高く評価できます。オープンスクールについては、現在、行われている教育活動を実際に見ていただけることで、保護者及び地域の皆様に理解を深める良い機会となっています。今後も、継続して実施していただくようお願いします。学校評議員については、コミュニティ・スクールの導入に向け、研究をお願いします。学校評価は、各学校の取組に大きな役割を果たすものです。より良い学校運営のために、改善すべきところをしっかり見極めて、役立てていただくようお願いします。		

６．子どもの安全を守る体制、教育環境・施設の充実を図る

【重点目標】①教職員の業務負担軽減を目的とした校務系ネットワークの整備を進める
②学校・園施設の老朽化に対応した改修による長寿命化を進める

事務事業名等	事業内容	評　価 成果・課題及び今後の対応等	担当課
教育振興事業	各小中学校のコンピュータシステム（校務系・教育系）を維持した。 事業費 (保守等) 小学校　67,566千円 中学校　60,937千円	【成果】 校務系システム及び周辺機器を更新し、データの一括管理及びセキュリティを強化することができた。また、教育系システム保守を継続し、充実した授業を展開できた。 【課題】 校務系システム環境と教育系システム環境の連携により、ネットワーク分離を必要としないネットワーク構成を実現し、教職員の柔軟かつ安全な働き方の土台を考える必要がある。また、セキュリティ対策やクラウドサービスの活用について、引き続き検討する必要がある。	教育総務
学校管理事業	教材備品・図書の充実 事業費 （教材備品） 小学校　5,563千円 中学校　3,278千円 （図書） 小学校　2,299千円 中学校　1,107千円	【成果】 教材備品の安定的かつ計画的な整備を図り、それに伴う授業の活性化、また、図書を通して、家庭と連携した読書活動を進め、児童生徒の主体的・対話的で深い学びを支援することができた。 【課題】 学校規模に応じて、教材整備状況や財政状況などを勘案しながら、学校教材備品の整備を行う。引き続き、学校図書の蔵書を充実させる必要がある。	教育総務
小中学校整備事業	津名中学校大規模改造事業（第２期） 事業費　668,059千円 内訳 設計監理費　6,705千円 工事費　635,140千円 備品購入費　26,214千円	【成果】 令和４年度から継続して行った大規模改造工事が完成し、教室の狭さの解消、電子黒板、マルチモニターなどの教育設備の充実を図ることができた。それにより、多様な学習活動が可能になった。 【課題】 他校との設備格差が、顕著になっている。格差解消に向けた、市全体での整備計画が必要である。	教育総務
	浦小学校教室等改造事業 事業費　73,432千円 内訳 設計監理費　4,957千円 工事費　43,075千円 （R4前払金）　25,400千円	【成果】 浦小学校区の児童数の増加によって、普通教室数が不足するため、特別教室等を普通教室に改造し、教室不足を改善できた。 【課題】 今後も、児童数の増加が見込まれるため、適宜対応が必要となる。	教育総務
［学識経験者の意見］	○教育振興事業については、校務系システム及び周辺機器の更新、データの一括管理及びセキュリティの強化により、更なるシステム環境の充実、活用をお願いします。学校管理事業では、教材備品は、常時、使用するもの、年に数回程度使用するものに分類して、数回しか使用しないものは、教育委員会で一括管理し、貸し出すなど、有休備品を減らし、限られた予算を有効に利用する工夫・検討をお願いします。小中学校整備事業では、津名中学校の大規模改造工事、浦小学校の教室等改造工事が完了しました。他の小学校施設整備でも、不要となっている施設等の撤去、利活用による教育環境の整備をお願いします。 ○校務系システムにおいて、セキュリティが強化されたことは、安心して職務を行うために役立ちます。セキュリティは、常に、チェックが必要です。あってはならない情報流出を食い止めるためにも日々強固な情報管理ができるよう努めていただくようお願いします。教材備品、図書の充実は、教育活動を実施する上で、大きなウェイトになっています。継続して、予算を確保していただくようお願いします。小中学校整備事業では、限られた予算の中で、計画的に進められていることに敬意を表します。将来の児童生徒の動向をしっかり予測しながら、より良い整備事業となるよう願っています。		

７．教育研究活動活性化事業「あいプロジェクト」「学びイノベーション事業」を発展充実させる

【重点目標】①小中連携・一貫教育を見通した指導の充実を図るための研究活動を推進する
②次世代に求められる情報活用能力の育成に努める

事務事業名等	事業内容	評　価 成果・課題及び今後の対応等	担当課
教育活性化推進事業 「あいプロジェクト」	小中学校が令和時代における新たな教育課題の発見・解決に向けた実践的な教育研究活動を奨励・支援するとともに、小中一貫教育の充実を図り、義務教育9年間を見通した教育の在り方について研究を推進し、教職員の資質の向上や児童生徒の学力向上、生徒指導の充実に資する。	【成果】 各中学校区での「小中9年間」の連続性を意識した研修を進めてきた。合同研究や他校の校内研修への参加を通して、ユニバーサルデザイン授業、対話的で深い学びにつながる授業、児童理解を柱にした授業等、児童生徒の発達段階や課題に応じた、より最適な授業を目指し取り組むことができた。特別な支援が必要な児童生徒への指導や、外国語、キャリア教育等、社会の多様性を反映した研修等、各地区・各学校の特色に応じた研修を充実させた。 【課題】 「9年間で目指す児童生徒像」を教職員間、学校間で共有、連携し、児童生徒を育てるという「開かれた教育課程」「魅力ある教育」を実現するための視点が必要である。	学校教育
「学びイノベーション事業」	「タブレット活用教育推進事業（H26～H30）」の継承と発展に向け、全ての児童生徒に対してタブレット端末1人1台環境等を整備し、これらの機器を活用した教育を充実させるための研修を進める。	【成果】 今年度においても、タブレット端末を新規に365台導入し、小学校4年生が中学校卒業まで持ち上がり利用できる配備サイクルを構築した。教職員にも貸与又は更新し、個別最適化された学びを実現する授業づくりの促進を図った。利用環境向上のため、経年劣化したＷｉ-Ｆｉアクセスポイントを順次入れ替えて整備を行った。授業における活用研究をリードする「学びイノベーター」を各校で選出し、研究・研修を深めた。校内研修の講師として、ＩＣＴ利活用と授業改善を促進し、児童生徒同士がつながるＩＣＴ利活用のみならず、教員同士が絆を深める利活用を推進した。 【課題】 デジタル教科書の普及を見据え、Ｗｉ-Ｆｉアクセスポイントの台数や回線強化等を充実させる必要がある。授業づくりについては、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が求められる。教育の最新事情を教員が学ぶ研修の機会を持つ必要がある。	学校教育
［学識経験者の意見］	○「あいプロジェクト」は、淡路市ならではの素晴らしい取組です。これからも、９年間で目指す児童生徒像を教職員間、学校間で共有、連携し、生徒を育てるという開かれた教育課程や魅力ある教育が実現されることを期待します。学びのイノベーション事業では、タブレットの更新など環境整備充実が図られています。全国的に見ても、タブレットの導入は早く、ソフト面でも先進的に進められてきています。今後も、周辺機器の充実やソフト面での拡充を期待します。 ○あいプロジェクトにおいて、小中間の教職員の垣根を越えて合同研修が継続して実施されています。研修の日程調整やその内容等を協議しながら進められていることに敬意を表します。ICT利活用については、技術革新が早く、数年もしないうちに新しいものが発表されるなど、その扱いに慣れることが必要です。本市では、工夫を重ねて教職員の研修も積極的に推進されています。お互いの持っているノウハウの共有にも寄与していると思います。さらに、研鑽をしていただき、効率的な活用をお願いします。画面を見る時間が長くなるため、児童生徒の視力低下につながらないよう、目の健康にも配慮していただくようお願いします。		

小中一貫教育推進事業「あいプロジェクト」
合同研修会（一宮中学校区）

学びイノベーション事業
1人1台端末による個別最適な学習の試み（体育科　志筑小）

８．学校保健を充実し、生涯にわたる健康の基礎を培う食育を通じて健康な心と身体を育成する

【重点目標】①専門性と実践的指導力の向上に努める
②地域内で生産される食材の利用拡大に努める
③安全かつ安心できる学校保健・学校給食を確立する

事務事業名等	事業内容	評　価 成果・課題及び今後の対応等	担当課
学校給食の地産地消の推進	地産地消の推進を図り、食育の向上を促進し、児童生徒に安全安心な給食を提供する。年間を通して地場産食材の使用率を高めるよう努める。また、企業及び事業所と連携し、加工食品品目の開発促進を進める。	【成果】 できる限り、淡路産の食材を指定して使用することができた。月間の全使用量が大量であるため、業者へ事前に連絡し、不足する場合は、日を限定して納入するなど、少しでも地元産の食材を使用するための工夫ができた。それによって、新鮮で栄養価の高い食事を提供することができた。 【課題】 事業所において、継続的に大量の市内食材を給食用として、安定供給できる生産・加工体制が必要である。また、食材や食品等を厳選することが必要である。	学校教育 (給食センター)
学校保健事業	児童生徒の学校における健康管理と学校環境の安全を確保する。	【成果】 各種検診や健康教育の実施及び測定機器の更新など、各校の実情に応じた児童生徒の健康管理や保健教育の充実を適切に行うことができた。学校環境（水質、照度等）の検査を継続実施することにより、学習環境の安全を確保することができた。 【課題】 検診事業は、市医師会に委託をしている。今後も学校・市教委・医師会の連携を密にし、学校の実情に応じた検診体制を構築していく必要がある。健康診断時の児童生徒への配慮等、社会の多様化に応じた配慮の必要性が毎年高まっている。	学校教育
［学識経験者の意見］	○学校給食の地産地消の推進について、淡路産の食材を指定して提供できたことは大変喜ばしいことと感謝します。学校給食は、食の多様化、目新しさ等、良い面もありますが、最近、子どもの個食・食事回数の減少等があります。学校給食による栄養バランスの取れた食事は、重要と考えます。季節感の感じられるメニューについても、食育の観点からも重要であると思います。また、パンは、減量パンがほとんどであると聞きます。地産地消の観点からもパン給食から、より多くを米飯給食へとの方向も検討いただけたらと思います。学校保健事業は、各種検診や健康教育の実施により、児童生徒の健康管理が適切に行われていることに敬意を表します。今後も、関係機関等との連携を密にして、検診体制の維持、継続をお願いします。 ○給食は、栄養バランスがしっかり取れています。地産地消を考えた食材を通して食の大切さを実感できるものとなっています。原材料費や燃料代が高騰する中、献立を考えるのは大変であること、さらに、安全面が特に必要とされます。食材の取扱いには特に神経をすり減らしながら調理されていると推察します。これからも児童生徒が楽しみとしている給食の提供に尽力いただくようお願いします。		

９．スポーツ活動を振興する

【重点目標】①地域に根づくスポーツコミュニティーづくりと多様なスポーツ活動の振興を図る

事務事業名等	事業内容	評　価 成果・課題及び今後の対応等	担当課
スポーツを通じた地域コミュニティづくり	スポーツ協会、スポーツクラブ21、スポーツ推進委員が協力連携し、その活動を通じて、スポーツの振興を図る。	【成果】 各種団体の下部組織等、それぞれが協力し、スポーツの振興及び普及に努めた。 【課題】 各種団体役員の高齢化が進んでおり、次世代に向けた役員の確保及び人材育成に努めていく必要がある。	スポーツ推進
市民体育祭・スポーツ表彰式	７月から12月の間にスポーツ協会各種目協会が開催する大会を「市民体育祭」として位置付ける。また、スポーツ活動に貢献又は優秀な成績を収めた者をスポーツ表彰授賞式において表彰する。	【成果】 19種目の市民体育祭が開催され、約1,900人の参加があった。また、スポーツ表彰として、優秀な成績を収めた83人の市民を表彰し、広報紙で紹介するなど、スポーツ意識の向上に努めた。 【課題】 今後も、スポーツ協会と連携しながら、安全にスポーツに参加できる大会運営に取り組む必要がある。	スポーツ推進
市立プール利用支援事業	市内の小中学生の泳力を養い体力の向上を図るため、夏休み期間中、津名温水プール、津名第二温水プール、北淡温水プール、東浦Ｂ＆Ｇ海洋センタープールの利用料金を助成する。	【成果】 延べ4,371人の利用があり、児童生徒の泳力向上と体力の強化等に貢献することができた。 【課題】 施設の老朽化が進んでおり、設備の改修など適正な施設の管理運営に努めていく必要がある。	スポーツ推進
温水プール運営事業	津名温水プールと津名第二温水プール、北淡温水プールの適正な施設管理を行い、水泳を通して、幼児から高齢者に至るまで多くの利用者の体力づくりと健康増進を図る。 3施設指定管理委託料　40,748千円	【成果】 施設の適正な維持管理を行いつつ、延べ69,179人の利用があり、幼児から高齢者に至るまで、多くの利用者の体力づくりや健康増進等に貢献することができた。 【課題】 施設の老朽化が進んでおり、設備の改修など適正な施設の管理運営に取り組む必要がある。	スポーツ推進

９．スポーツ活動を振興する

【重点目標】①地域に根づくスポーツコミュニティーづくりと多様なスポーツ活動の振興を図る

事務事業名等	事業内容	評　価 成果・課題及び今後の対応等	担当課
スポーツ親善大使	淡路市にゆかりのあるトップアスリートを通じて、淡路市の魅力をＰＲするとともに、市民の郷土への愛着とスポーツへの関心を高める。	【成果】 淡路市スポーツ親善大使である近本選手（阪神タイガース）が、佐野運動公園室内練習場にて、自主トレーニングを公開し、市内外から、3,120人の見学者が訪れた。市民の郷土愛やスポーツへの関心を高めることができた。 【課題】 昨年は、近本選手の活躍と阪神タイガースがプロ野球日本一になったことが相まって、非常に多くの見学者が訪れたが、今後、更なる入場者の増加に対し、入場制限などの対策の検討が必要である。	スポーツ推進
ウォーキングイベント2024	健康意識の向上や体力の向上を目的に、ウォーキングイベント2024を開催する。	【成果】 市民の方、127人が参加し、約10ｋｍのコースを歩き、健康意識の向上につながった。また、参加者にごみ袋を渡し、清掃ウォーキングを行い、美化活動にもつながった。 【課題】 参加者全員が、リタイアすることなく、ゴールしたが、先頭者と最終者で、かなりの時間差があったため、コースなどの検討が必要である。	スポーツ推進
全淡スポーツ大会	健康スポーツを通して薄れがちな地域社会の連帯意識を強め、交流やスポーツの振興を図るため、ソフトバレーボール、モルックの二種目を実施する。	【成果】 幅広い年代層の参加者であった全淡スポーツ大会であるが、二種目を開催し、地域交流やスポーツの振興を図ることができた。 【課題】 実施する種目によっては、予選会の実施や研修会の開催、用具の購入費用など事前準備が必要である。 また、モルックについては、人気が高く、申込み件数が多数となり、参加チームが、キャンセル待ちの状況になったことから、開催方法などの検討が必要である。	スポーツ推進

スポーツ親善大使による自主トレーニング

競技種目：ソフトバレー
（全淡スポーツ大会）

９．スポーツ活動を振興する

【重点目標】①地域に根づくスポーツコミュニティーづくりと多様なスポーツ活動の振興を図る

事務事業名等	事業内容	評　価 成果・課題及び今後の対応等	担当課
生穂新島運動公園管理運営事業	市民のスポーツの普及及び健康の増進を図るとともに、市民の文化的な生活の向上に資するため、多目的ドーム及び多目的広場の適切な管理運営を行う。 施設管理委託料　1,614千円 工事請負費 多目的広場整備工事　100,932千円	【成果】 多目的ドームの維持管理を行い、延べ8,689人の利用があり、幼児から高齢者に至るまで、多くの利用者の体力づくりや健康増進等に貢献することができた。令和6年3月、新たに、学校等教育振興基金（三津基金）を活用した多目的広場が完成したことで、さらなるスポーツの普及及び健康の増進を図る拠点となった。 【課題】 既存施設の改修、新規施設の維持管理など、新たな、課題がでてきている。今後も、適正な管理運営に努めていく必要がある。	スポーツ推進
［学識経験者の意見］	○スポーツを通した地域コミュニティづくりは、スポーツ協会やスポーツクラブ２１、スポーツ推進委員が活動支援を行い、地域づくりを進められているもので、今後も、継続した支援をお願いします。市民体育祭は、各種目協会が市民体育祭と位置付け開催されているもので、参加人数も多く、今後も、継続して取り組んでいただきたい。スポーツ表彰は、日頃の練習の結果であり、意識の高揚や今後の励みになることと思います。市立プール利用支援事業は、児童生徒の泳力向上と体力強化を図るために進められています。温水プール運営事業は、幼児から高齢者まで、体力づくり、健康増進を目的として、多くの利用者がいます。老朽化している施設について、早急に改修、メンテナンスを行い、適正な管理ができるよう進めていただきたい。また、プール監視員の確保が課題です。学校側での対応、プール側での対応等、適正な人員確保ができる体制づくりに取り組んでいただきたいと思います。スポーツ親善大使の近本選手の自主トレーニングの公開は、多くの見学者が訪れ、スポーツへの関心を高めました。ウォーキングイベント２０２４は、健康意識の向上や体力増進に多くの参加があり、継続していただきたいと思います。 ○多種多様なスポーツ活動を通して健康への意識が高まっていると言えます。スポーツ活動に貢献された方々や、優秀な成績を収めた方々への表彰は、素晴らしい取組です。プール利用が増加しており、体力づくり、健康増進に貢献できていることは、大いに評価できます。施設の老朽化対策を継続的に進めていただくようお願いします。スポーツ親善大使の取組で、郷土の誇りである近本選手のトレーニングを近くで見られたのは、子どもたちだけでなく地域の方々も大きな刺激となったと思います。ウォーキングイベントは、誰でもが気軽に参加できるものとして大いに注目できます。清掃活動も並行して行われており、環境美化に対する意識の向上にもつながっており、素晴らしい取組と言えます。これからも、いろいろな取組をする際には、安全面や参加者の体調への配慮をしていただき、楽しくスポーツができる環境を整えていただくようお願いします。		

１０．人権感覚に満ちた人づくりに努める

【重点目標】①課題と展望を明らかにする
②人権に関する学習の活性化を図る
③人権尊重の文化に満ちたまちづくりをすすめる

事務事業名等	事業内容・実施状況等	評　価 成果・課題及び今後の対応等	担当課
人権啓発事業	人権広報紙 「まるごとじんけん」の編集・発行 年3回　各18,000部発行 事業費　540千円	【成果】 有識者による啓発記事に加えて、市内の人権イベントや小学校・聴覚障がいのある方の体験談や手話の紹介などを掲載して、人権について啓発してきた。また、各戸配布に加えて市のＷｅｂサイトで公開することにより、市外の方への啓発も行っている。Ｗｅｂサイトには、ひとみの会の協力により、「声のまるごとじんけん」も掲載している。 【課題】 今後も、有益な情報や身近な情報を掲載し、多くの方に見ていただける魅力的な紙面づくりを進めていく。	市民人権
人権啓発事業	人権文集「こころ」の編集・発行 年1回　3,100部発行（市内児童生徒の家庭、公共施設等への配布） 事業費　338千円	【成果】 日頃の学習や生活の中で体験したことを人権の視点で捉え直すため、小中学校・高等学校・一般に人権作文を募集した。また、保育園（所）及び小中学校に人権に関するイラストを募集した。選出された作文及びイラストを掲載した「人権文集こころ」を発行し、市内の小中高校、図書館・公民館などの公共施設や医療機関に配布した。市内の児童生徒の体験や取組が、作文を通して紹介されることで、保護者や市民からの共感的理解が得られやすくなり、人権について考える良い機会となったという声も寄せられた。 【課題】 公共施設や医療機関への配布など、広く読者を得ようとしてきたが、まだまだ、浸透しているとは言えない。また、作文内容に個人情報を含むこともあるため、掲載、発刊に関しては、当事者への確認を含め、十分に配慮して行う必要がある。	市民人権
人権啓発事業	人権啓発推進教材購入 （人権啓発ＤＶＤ等） 人権尊重ポスター・標語の募集 人権啓発グッズ作成 （人権標語記載ウエットティッシュ等） 事業費　518千円	【成果】 人権意識を涵養するような啓発グッズを企画し、そこに、市民や小中学校・高校から公募した人権啓発標語や保育園・小中学校から募集したイラストを印刷し、様々なイベントで市民に配布することによる啓発を行った。啓発用品の一つに、手提げバッグがあり、お持ちいただくことにより、様々な場面で、広く人権啓発ができるようになっている。 【課題】 令和3年度から、環境問題に配慮して、啓発用うちわをプラスチック製から竹製に変えた。今後も、ＳＤＧｓに配慮した、啓発グッズの開発を進めるとともに、さらに、人権意識が浸透していくような工夫をしていく。	市民人権

１０．人権感覚に満ちた人づくりに努める

【重点目標】①課題と展望を明らかにする
②人権に関する学習の活性化を図る
③人権尊重の文化に満ちたまちづくりをすすめる

事務事業名等	事業内容	評　価 成果・課題及び今後の対応等	担当課
淡路市人権教育研究協議会	淡路市人権教育研究協議会では、あらゆる差別意識の解消や人権感覚の醸成を図ることなどを目的として、人権啓発を中心とした事業に取り組んでいる。 淡路市人権教育研究協議会補助金 事業費　4,048千円	【成果】 「じんけん市民講座(5回)」、「人権を考える集い」、「人権シネマ」、「学童保育人権学習(13回)」などの事業を実施して、市民への啓発活動に努めた。 また、住民学習支援事業(46回)など、市民の自主的な活動の場に赴き、人権講話を行った。 【課題】 部落問題や男女共同参画社会実現、インターネットによる人権侵害など、様々な人権課題がある。多くの人権課題がある中、効果的に人権啓発を進めるために、どのような取組を行っていくかが課題である。	市民人権
淡路地区人権教育研究協議会	兵庫県人権教育研究協議会及び島内3市の人権教育研究協議会と連携し、淡路地区の人権教育推進を図る。 淡路地区人権教育研究協議会負担金 事業費　1,483千円	【成果】 島内３市各協議会における人権教育推進の実践報告会として、淡路地区研究大会を開催し、人権意識を高めることができた。令和5年度は、全国人権・同和教育研究大会兵庫県人権教育研究大会中央大会が兵庫県で開催されたため、例年よりも、多くの参加者が全国大会に参加することができた。全国の報告者から、様々な人権課題についての発表を聞くことができ、多方面からの人権問題を学ぶことができた。 【課題】 いつも、同一参加者が集まる傾向にあるため、研究大会など、新規の参加者をどのように増やしていくかが課題である。	市民人権
［学識経験者の意見］	○人権啓発事業は、人権広報紙「まるごとじんけん」の各戸配布及びウェブサイトでの公開、また、人権文集「こころ」を公共施設や医療機関へ配布することによる読者の拡大、児童生徒の体験や取組内容を紹介するなどし、幅広く人権啓発活動ができたようです。人権啓発グッズは、人権意識高揚に欠かせないものです。今後も、イベント等を活用し、啓発に努めてください。淡路市人権教育研究協議会は、「じんけん市民講座」、「人権を考える集い」、「人権シネマ」、「学童保育人権学習」等により、広く市民への啓発に努めていただき感謝します。引き続き、市民が参加しやすい取組をお願いします。 ○人権啓発事業で、紙媒体だけでなくＷｅｂサイトも積極的に活用されていることは、大変良いことであり評価できます。人権文集「こころ」は、小中学校、高等学校、一般から作品が募集され、身近な部分で人権を感じることができるものとなっています。編集作業は、大変なものがありますが、これからも継続して、より良いものになることを願っています。淡路市人権教育研究協議会と淡路地区人権教育研究協議会は、互いに連携しながら運営されています。多種多様な人権課題がある中、少しずつでも、取組が課題解決につながることを切に願っています。関係者の苦労が実を結ぶためにも多くの情報発信をお願いします。		

１１．生涯学習の機会・環境を充実させる
図書館のサービス体制を充実させる

【重点目標】①生涯学習社会の構築を目指して、学習機会の拡大や学習成果の活用の推進を図る
②住民のニーズに応じて生涯学習施設の一層の利便性を図る
③住民の学習活動の活性化に向け、各種団体の育成や活動支援を図る

事務事業名等	事業内容	評　価 成果・課題及び今後の対応等	担当課
公民館活動の充実	公民館において、市民の生きがいとなる学習を通して教養の向上、生活文化の振興、社会福祉の増進等、こころ豊かな生き方や地域づくり、人づくりを学ぶ機会を提供する。 公民館事業費　104,315千円 講座数　380講座 受講者数　627人 延べ受講者数　4,597人	【成果】 調理教室や健康志向講座など、受講者が主体となった講座を実施することで、生涯学習の場として、生活の中に潤いと生きがいを提供することができた。 【課題】 公民館講座において、適切な講師の確保、特に、専門的な知識や経験を持った講師を探すことが難しくなっている。参加者に対して、充実した学びや体験をいかに継続させていくかが課題である。	社会教育
高齢者講座の運営	豊かな人生経験者である高齢者が、仲間づくりの輪を広げながら、新たな教養を身に付け、充実した生活環境や健康増進に役立つことができるように推進する。 地域　5地域 講座数　100講座 受講者数　362人 延べ受講者数　3,620人	【成果】 共通の関心や趣味を持つ高齢者が集まる講座で、参加者同士が交流し、新しい友人やコミュニティを形成することができ、受講者も増えた。 【課題】 高齢者大学講座の受講者に対して、充実した学びの経験を提供するため、今日的な課題や新たなテーマに関する講座を実施していくための講師の発掘が課題である。	社会教育
図書館の運営	第2次淡路市立図書館基本計画に基づき、多様化する市民ニーズに対応するために、行政主導ではなく、図書館パートナーの会等と連携し、市民協働による図書館運営に取り組む。また、第2次淡路市子ども読書活動推進計画に基づき、学校等と連携し、市内の幼児や児童に対する読書環境の充実に努める。 事業費　98,439千円 利用者数　69,821人 貸出冊数　284,395冊	【成果】 従来のような静かで本を借りるだけの図書館ではなく、多様なサービス、地域情報の収集・保存・活用・発信を行い、地域活動の拠点となるような運営を行った。また、地域課題の解決に向け活動している市民団体と協働し、空き家問題や人権問題などに関する講演会を開催した。「図書館フェス」では、図書館パートナーの会によるボードゲームや朗読会、淡路高校の料理教室、園芸団体による寄せ植え教室、ＡＬＴの英語紙芝居など、多様なイベントを行い、情報発信拠点としての役割を果たした。 【課題】 ・図書館運営体制の強化 ・子どもに対する読書環境の充実 ・地域活性化につながる拠点づくり	社会教育

津名公民館しづか学園（淡路市消費生活センター防犯講座）

市民団体との協働イベント（図書館フェス）

１１．生涯学習の機会・環境を充実させる
図書館のサービス体制を充実させる

【重点目標】①生涯学習社会の構築を目指して、学習機会の拡大や学習成果の活用の推進を図る
②住民のニーズに応じて生涯学習施設の一層の利便性を図る
③住民の学習活動の活性化に向け、各種団体の育成や活動支援を図る

事務事業名等	事業内容	評　価 成果・課題及び今後の対応等	担当課
社会教育委員による市の社会教育施策の検討	地域住民が中心となる社会教育実践の場の構築、社会教育施設に向けた提言を行う。 委員会回数　3回 （うち1回は、公民館運営審議会と合同開催）	【成果】 公民館施設等を中心に、地域の特色に応じた生きがいづくりや市民の学びの場を提供することができた。本市の社会教育事業について、積極的に協議を行い、提言について、担当部局へつなぐことができた。一例としては、デジタル化の推進に関する提言を受け、無料Wi-Fiの整備について、公民館施設の利便性の向上など機能強化やサービスの充実に取り組むよう提案した。 【課題】 若者世代も参加できる生涯学習の推進や就労に向けての学習機会を支援していく仕組みづくりが必要である。また、急速な少子高齢化による社会構造の変化や、AI、SNSの発達等の課題に対し、必要な知識の習得や課題解決に向けて共に学び合う機会の充実を図る必要がある。	社会教育
二十歳の祝典の支援	二十歳を迎え、社会人としての自覚と誇りをもって、自ら生き抜こうとする二十歳の皆様を祝福する。 日時　令和6年 1月 7日　14時～ 場所　しづかホール	【成果】 二十歳の実行委員が自らの手で企画運営を行い、二十歳の祝典を意義あるものにすることに努めた。式典を撮影し、期間と対象者を限定してネット配信（録画配信）を行った。 令和6年 1月 7日　参加者320人 【課題】 引き続き、実行委員会の主体的な運営を促進し、二十歳の祝典の企画を実現する支援が重要である。	社会教育
婦人会の活動支援	課題が多様化する地域社会において、特に女性の立場から、男女共同参画、青少年健全育成、環境美化活動、子育て支援を推進し、心豊かな地域づくりに寄与する活動の支援を行う。 会員数　60人 加入団体　2団体（一宮･東浦）	【成果】 「生命と暮らしを守るためのライフスタイルの創造」を努力目標とし、子育て支援や青少年健全育成、環境を考えたリサイクル活動、地域での奉仕活動等の幅広い活動を行い、心豊かな地域づくりの推進に寄与した。令和5年度は、淡路市夏まつりや敬老会、福祉大会、淡路環境のつどいなどのイベントに参加した。また、会員を対象とした研修会で啓発を行っている。 【課題】 会員の高齢化と減少が進んでおり、組織の活性化のため、地域で新しい婦人会活動の在り方を研究・支援する必要がある。	社会教育
［学識経験者の意見］	○公民館活動では、公民館講座や高齢者講座により、市民の生きがいづくりや教養の向上の機会を提供できています。今後も、住民のニーズに沿った講師の確保に取り組んでいただけるようお願いします。高齢者講座については、新たな友人との交流の場となり、参加者は増加しています。引き続き、充実した内容で、講座の提供をお願いします。図書館では、地域情報の収集・保存・活用・発信など、従来の運営から発展した内容で取り組まれています。今後も、書籍の充実と併せて、地域活動の拠点となる運営をお願いします。二十歳の祝典は、対象者で実行委員会を組織し、委員自ら企画運営を行い、祝典を意義あるものにすることができ、素晴らしい祝典になったと思います。 ○公民館活動、高齢者講座、図書館において、常に新しいものを取り入れ充実したものになっていると評価できます。市民にとって、活動の場がたくさん準備されていることは、孤立を防ぎコミュニケーションができることで生きがいを感じることにつながっています。婦人会活動は、組織が縮小の傾向にあり、運営が大変困難な局面を迎えていると思います。その中にあって、地道に活動を続けられている方々に頭が下がる思いです。地域の人が、多様な学習ができる場づくりを積極的に推進していただくようお願いします。		

１２．青少年健全育成を市民ぐるみで推進する

【重点目標】①学校と地域との連携・協力体制を強化し、子どもを健やかに育む支援を図る
②青少年の健全育成に資するため、各種事業の充実を図る
③急激な少子化や核家族化の中で、親子の絆を深め心豊かに子育てができる支援を図る

事務事業名等	事業内容	評　価 成果・課題及び今後の対応等	担当課
放課後子ども教室推進事業	放課後や休日の子どもたちの安全・安心な活動拠点、居場所づくりとして、市内に5か所7教室の「放課後子ども教室」を設ける。 事業費　1,584千円 登録者（7教室）　197人	【成果】 参加児童からの満足度も高く、放課後の子どもの居場所づくりとして、一定の役割を果たすことができた。また、他学年や地域のボランティアとの世代間交流としても機能することができた。 特色ある多様な活動メニューを計画し、実施することで、子どもたちが、「まなぶ喜び」や「つくる喜び」を得る機会を創出することができた。また、茶道や陶芸などの体験教室を行うことで、伝統文化に親しむことができた。 【課題】 地域ボランティアの裾野を広げ、学校・家庭・地域の連携体制強化を図るための施策が必要である。	社会教育
地域学校協働本部推進事業	地域と学校の連携・協働体制推進事業のコーディネート、人材バンクの作成と管理を行う。また、学校教育課と連携し、コミュニティスクールの導入を推進する。 事業費　687千円 対象校　市内小中学校	【成果】 人材バンクとの連携を強化することで、地域と学校のつながりを深め、地域学校協働体制を推進することができた。コミュニティ・スクールの導入については、学校教育課と連携し、協議の場や各種研修に参加することで、知見を深めた。 【課題】 コーディネーターの活動範囲を拡大し、地域と学校が連携・協働する仕組みの充実、ネットワーク化をさらに進めていく。そのため、地域や学校、家庭との情報共有を今まで以上に進めていく。	社会教育
放課後児童健全育成事業	保護者が仕事等により昼間家庭にいない就学児童及び健全育成上指導を要する児童を対象に、放課後及び長期休業日（春・夏・冬休み）に生活の場を確保し、適切な遊びや指導を行う。 事業費　241,941千円 登録者（11学童）　631人	【成果】 放課後及び長期休業日に家庭に代わる生活の場を確保し、適切な遊びや指導を行い、児童の健全育成を図ることができた。保護者の仕事と子育ての両立支援体制の充実を図ることができた。 学童保育大町については、大町会館から小学校敷地内へ新築、移転を実施し、安全面、利便性等課題を解消することができた。 【課題】 共働き世帯の増加や移住者増に伴い、児童利用者数が増えており、支援員の確保が課題となっている。	社会教育

「学童保育」と「子ども教室」の一体型事業を展開
（紙でつくろう　北淡地域）

放課後子ども教室（囲碁ボール）

１２．青少年健全育成を市民ぐるみで推進する

【重点目標】①学校と地域との連携・協力体制を強化し、子どもを健やかに育む支援を図る
②青少年の健全育成に資するため、各種事業の充実を図る
③急激な少子化や核家族化の中で、親子の絆を深め心豊かに子育てができる支援を図る

事務事業名等	事業内容	評　価 成果・課題及び今後の対応等	担当課
青少年センター管理運営事業	青少年の補導活動を総合的に推進し、青少年の非行化を防止するとともに、学校・家庭・友達で困ったことや心配ごとの相談をはじめ、不登校生のための適応指導教室の運営及び各学校の生徒指導の支援を行う。 事業費　17,750千円	【成果】 青少年センター適応指導教室では、不登校児童生徒への修学指導の強化を図り、登録者30人(うち通所者20人)で、8人の学校復帰となった。 【課題】 不登校児童生徒に対し、個々の状況に応じた個別的・継続的な相談・支援を行い、その特性を生かした就学・就労等に結び付けるため、学校等関係機関と連携し、これらに対応するための支援体制の継続が必要である。また、通所するには、車での送迎が必要であり、利用したくても利用できない状況もあり、地理的な改善が必要である。今後も、不登校児童生徒が学校復帰できるよう適切なケアを行っていくことが必要である。	社会教育 学校教育
淡路市ＰＴＡ連合会の活動支援	ＰＴＡ相互の連絡・調整、会員の研修及び社会諸情報の交換を行う。また、家庭教育及び社会教育の改善振興、学校教育の充実発展を促し、関係機関・団体との連携を図る。	【成果】 淡路市青少年健全育成委員会と合同でＰＴＣＡ地域フォーラム・青少年健全育成大会を開催し、ＳＤＧｓとネットテラシーに焦点を当て、情報交換を通して、教育の今日的課題について共通理解を図ることができた。 【課題】 単位ＰＴＡでは、毎年の役員選考をはじめ、運営に関する様々な問題を抱えている。不安定な引き継ぎにより、活動の形骸化を招かないように、ＰＴＡ活動や各事業の目的を会員全体で確認し、共有することが重要である。	社会教育
青少年健全育成事業	青少年健全育成委員会等を中心に、青少年の心と体への健全な発展を促し、自主性・社会性や正義感・倫理観を持った豊かな人間性を育むため、地域ぐるみで取り組む青少年健全育成活動を推進する。	【成果】 地域の関係機関や団体と連携して、青少年の健全育成に努める。共に生きる地域社会の実現を目指して、青少年のふれあい活動やグループ活動の充実を図り、家族間、世代間、地域間の交流を促進し、青少年に生きがいを持たせる活動を行った。 【課題】 青少年は、様々な背景やニーズを持っているため、全ての子どもたちに適したプログラムの提供は容易でない。また、地域社会の支援、理解と協力を促す必要がある。	社会教育
［学識経験者の意見］	○放課後子ども教室は、子どもたちに「まなぶ喜び」や「つくる喜び」を提供できています。参加児童の満足度も高いことから、引き続き、活動内容の充実を図りながら運営をお願いします。放課後児童健全育成事業では、今後も、利用者の増加が予想されます。支援員の勤務時間の工夫、待遇改善などにより、必要人員の確保をお願いします。不登校やいじめ、児童虐待、生活困窮など子どもたちの抱える問題は、多様化し、増加の一途です。青少年センターの役割は、重要となっています。引き続き、不登校児童生徒の状況に応じた個別的・継続的な相談・支援をよろしくお願いします。淡路市ＰＴＡ連合会と青少年健全育成委員会が、合同で地域フォーラムを開催し、教育の今日的課題の共通理解ができたことは、大変意義あることと思います。 ○共働き世帯や一人で働きながら子育てをしている家庭がある中で、放課後子ども教室推進事業、放課後児童健全育成事業が果たす役割は、大きいものと言えます。仕事をする上で、子どもを安心して預けられる場所があることは、子育て世帯にとっての救世主といえます。ただ、人材確保がないと希望しても受け入れられないということにつながります。人材確保とスペースの確保、安全な運営を常に考えていただきたいと願っています。青少年センター適応指導教室では、大きな成果を上げられていることに感謝します。青少年の健全育成に対して多大なる努力がなされ、希望をもって生活できる場の提供は、児童生徒本人の自己肯定感を育む上で重要であると言えます。		

１３．芸術・文化活動を振興する

【重点目標】①市民の創造的な芸術文化活動の推進と環境の整備を図る
②文化団体間での交流を促進し、市民の文化活動の活性化を図る
③地域の文化・芸術の向上をめざし、活動の拠点の整備と充実を図る

事務事業名等	事業内容	評　価 成果・課題及び今後の対応等	担当課
文化団体の活動支援事業	芸術文化振興のため、淡路市文化協会を中心にした市民団体の活動に助成を行う。	【成果】 本部事業として、文化公演会「淡路島の郷土芸能交流＆和太鼓」や「淡路市総合文化祭」など、多くの市民が芸術文化に触れる機会を創出した。 また、地域事業においても、各地区の特色を生かした活動「静御前まつり」、「歴史探訪」、「ウィズ・ハッピーまつり」等、年間を通して実施し、市の芸術文化の振興に寄与した取組ができた。 【課題】 高齢化する社会にあって、後継者の育成や会員の減少など、加盟団体の活性化の支援が必要である。	社会教育
文化ホール管理運営事業	市内2か所の各ホールで地域性豊かな自主事業及び貸館事業を行う。 事業費 しづかホール　102,181千円 ｻﾝｼｬｲﾝﾎｰﾙ　90,021千円	【成果】 市内2か所のホールは、指定管理者制度を導入している。指定管理者と協議を行いながら、施設や地域の特性を生かした自主事業を実施した結果、市内に限らず、多くの方に参加いただき、ホールの認知度を向上させた。 老朽設備の更新を実施し、安全、安定したホールの運営に努めた。 【課題】 施設、設備の老朽化による改修、更新が急務となっており、順次、計画的に改修工事を実施することで、安定した運営を行う必要がある。	社会教育
淡路島ココだけの文化祭の実施	淡路地域で活動する様々な団体が一堂に会し、お互いの舞台発表等を通して交流することで、地域文化の振興を図ることを目的に、令和2年度から事業を実施している。 参加団体　島内10団体（うち淡路市3団体） 会場　しづかホール 負担金　116千円	【成果】 淡路地域で保存、継承されている伝統芸能や民族芸能、淡路島をテーマとした創作芸能や様々なジャンルの文化活動に取り組む団体が出演した。多様な団体が舞台発表等を通して交流し、来場者も含めて、世代を超えた地域文化に対する共感の場となった。来場者アンケートにおいても約95%の方から「良かった」、「とても良かった」との評価を得た。 令和5年度で本事業は、最終年度となったが、集大成を飾る成果を得ることができた。 【課題】 なし	社会教育
［学識経験者の意見］	○文化団体の活動支援事業における芸術文化の振興は、市民が心豊かに生活を送る機会を創出するための、必要な事業であると考えます。各施設、設備の老朽化が進んでおり、早急な対策が必要となってきています。早めの維持修繕を行うことで、施設の維持ができるものと考えます。利用者が、安心安全に施設を利用できるよう、引き続き、対応をお願いします。淡路島ココだけの文化祭では、淡路島で保存継承されている伝統芸能等を発表し、交流の場となっていましたが、令和５年度で、最終年度のようですが、今後、検討いただき、新たな発表の場の提供ができればと思います。 ○淡路島は、数多くの伝統文化が継承されています。淡路島ココだけの文化祭の事業が、令和５年度、最終年度を迎え大きな成果を上げられたことに関係者の皆様に敬意を表します。魅力ある芸術文化活動は、地域の活性化に大きく寄与していると思います。文化ホールの管理運営は、施設の音響、照明などの技術スタッフがいないと成り立たないものです。その確保と財源をしっかりと整えないと、舞台発表の魅力が１００％発信できなくなります。施設を地域の拠点として、最大限生かせる工夫をこれからも期待しています。		

１４．文化財を適切に保存、積極的に活用する

【重点目標】①文化財の活用による郷土への理解の促進を図る
②埋蔵文化財の発掘調査を実施し、開発事業の円滑な推進と文化財の保護との調整を図る
③伝統芸能や無形民俗文化財の保存・伝承を図る

事務事業名等	事業内容	評　価 成果・課題及び今後の対応等	担当課
埋蔵文化財調査事業	各種開発事業に伴う埋蔵文化財調査を実施し、適切な保護措置を図るとともに、出土遺物の整理作業を推進し、調査報告書を作成する。 事業費　6,761千円 調査遺跡数　24件	【成果】 個人住宅等の建設や、一宮経営体育成基盤整備事業に伴う試掘確認調査及び発掘調査を実施し、埋蔵文化財保護と円滑な事業推進の調整を図った。また、小学校に赴き、子どもたちや教員を対象に、土器等を直接手で触れる出前授業を実施した。発掘調査で明らかとなってきた郷土の歴史を伝え、地域の歴史について共有し、考える機会を設けた。 【課題】 市民が、地域の歴史文化遺産に関心を持てるような展示や勉強会等を開催する必要がある。教員と連携し、学校教育での活用を推進する必要がある。今後、市民と文化財に対する歴史的価値を共有するために、合併以前に実施した発掘調査の成果をまとめ、調査報告書を刊行継続する。	社会教育
史跡五斗長（ごっさ）垣内遺跡保存活用事業	史跡五斗長垣内遺跡を適切に保護するとともに、遺跡の特徴を生かし、歴史・環境・地域の成り立ち等を学ぶ場として活用を図る。遺跡のシンボル「ごっさ鉄器工房」の屋根等の修繕を行った。 事業費　27,039千円 来訪者数　10,820人	【成果】 地域住民やボランティア養成講座と連携し、史跡の維持管理を行い、草刈り業務を地域団体に委託することで、地域住民にとって魅力の再認識やおもてなしの心を育むといった、風土の醸成に寄与した。また、ボランティアと連携し、史跡整備を行うことで、市民自ら地域の文化財を守り・伝える仕組みづくりに寄与した。課外授業等の受入れ等により活用が図れた。また、県内の遺跡のイベントへボランティアと参加することで、弥生時代や歴史に興味のある方へ、五斗長垣内遺跡のＰＲを行うことが出来た。遺跡のシンボルであり、体験棟でもある「ごっさ鉄器工房」の屋根修繕整備を行った。 【課題】 地域住民やボランティア養成講座と連携し、適切な保護を行うとともに、人づくりの学舎、地域づくりのシンボル、交流の拠点として、積極的な情報発信に努める。また、教育機関と連携し、遺跡を生かした、新たな教育プログラムの開発と充実を図る必要がある。	社会教育
国生み研究プロジェクト事業 ～舟木（ふなき）遺跡　重点調査事業　～	舟木遺跡をはじめとした弥生時代遺跡群の総合的な調査を行う。 事業費　4,859千円	【成果】 舟木遺跡の第Ⅱ期発掘調査（令和2～4年度）により出土した遺物整理や科学分析、鉄器の保存処理のほか、旧町時代の調査を整理し調査報告書を刊行した。また、史跡整備に向けた植生調査を実施した。 【課題】 引き続き、淡路市文化財保存活用地域計画に示したように、舟木遺跡の全域を対象とした継続的な発掘調査の実施や出土遺物の分析、五斗長垣内遺跡との関係性等について研究する必要がある。 また、地域住民や土地所有者と当該遺跡の価値の共有を図り、遺跡保存だけでなく集落環境を含めた活用を検討する。	社会教育

市内遺跡　発掘調査の様子
東浦・松原遺跡

五斗長垣内遺跡
ごっさ鉄器工房屋根修

五斗長垣内遺跡ボランティア活動
大中遺跡（播磨町）祭で鉄器づくり体験を指導する

１４．文化財を適切に保存、積極的に活用する

【重点目標】①文化財の活用による郷土への理解の促進を図る
②埋蔵文化財の発掘調査を実施し、開発事業の円滑な推進と文化財の保護との調整を図る
③伝統芸能や無形民俗文化財の保存・伝承を図る

事務事業名等	事業内容	評　価 成果・課題及び今後の対応等	担当課
野島断層保存活用事業	国指定天然記念物の野島断層の補修及びクリーニング工事、震災体験館地震体験装置更新のプロポーザルを行った。専門機関と連携し、展示内容の充実を図るとともに、普及講演会を開催した。 事業費　15,991千円	【成果】 野島断層の補修及びクリーニングを行い、断層の保護を行った。また、専門機関と連携し、見学者の地震記憶継承と防災教育の教材とする展示パネルを作成し、野島断層及び活断層に対する関心や理解促進に寄与した。また、普及講演会によって防災・減災の意識の向上となった。 新たな、地震体験装置について、令和5年度は、ＶＲ映像部分を製作し、令和6年度では、チェア部分の製作及び完成を予定している。 【課題】 今後は、震災から30年以降に向けた、震災の記憶継承や防災・減災への活用、展示物のリニューアル、野島断層の日常管理について、精査が必要である。	社会教育
文化財保存補助事業	市内に所在する指定文化財の保存管理を行う団体等に対し、保存、管理及び活用に係る経費の一部を補助し、文化財の適切な保存に努める。 事業費　1,000千円 件数　7件	【成果】 江戸時代初期の頃とされる庭園を持つ「長泉寺」等、指定文化財の保存管理を行っている団体に対して補助を行い、文化財の維持管理や地域文化の継承及び普及・啓発に効果があった。また、台風の被害を受けた県指定文化財「常隆寺のスダジイ・アカガシ群落」の樹木の治療に対し、補助することによって、貴重な文化財の保存に、効果があった。 【課題】 過疎化・少子高齢化が進行する地域では、当該補助があっても関係者の負担が大きいことから、これまでのように地域で保存することが難しくなっている。文化財の歴史教育を推進するとともに、地域の宝・シンボルとしてＰＲし、保存・継承する後継者の育成に取り組む必要がある。	社会教育
［学識経験者の意見］	○埋蔵文化財調査事業では、発掘結果を地域住民と共有しながら文化財保護を実施されたことに感謝します。史跡五斗長垣内遺跡は、地域ボランティア養成講座と連携し、史跡の維持管理、地域団体による草刈り作業、ホランティアによる史跡整備など市民参加で史跡の保護に取り組まれていることに敬意を表します。舟木遺跡は、計画的に調査が進められています。今後も、全容解明に向け調査をお願いします。市内には、野島断層をはじめ、指定文化財が数多くあります。これらの文化財の保存、継承、維持管理は、重要な課題です。地域で保存することが難しくなっていることから、各要望に対応した保存、管理、活用への補助の充実をお願いします。 ○子どもたちが出前授業で本物の土器に触れる機会があることは、興味関心を一気に高められるものです。淡路市には、数多くの遺跡や天然記念物などが存在し、その保存に尽力されていることに対して、敬意を表します。また、数多くの啓発活動により、地域の方々はもとより、外部への発信も行われており、広く市民に、地域の歴史を考える機会を提供できています。素晴らしいことです。埋蔵文化財の保存管理には、莫大な時間と労力が必要であり、その苦労されたものが、少しでも世に出て役立つことを願っています。編集は、大変ですが、淡路市の文化財総合マップなどがあれば、現地を訪ねることができて魅力発信につながるかと思います。	

佐野公民館所蔵資料調査

野島断層普及講演会
（セミナーハウスにて）

五斗長垣内遺跡ボランティア活動
小学生の古代体験を指導する様子

［総評・その他］	○令和５年度、淡路市のめざす教育の姿として、基本理念「ふるさと淡路を創る」～未来に輝く人づくり～を掲げ、教育委員会点検評価報告書にある事業やそれ以外の事業について積極的に取り組み推進されましたことに敬意を表します。 　さて、淡路市には、市民が集える施設やスポーツを楽しめる施設、児童生徒の通う学校等、教育委員会が管理している教育施設が市内各地域に数多くあります。これらの施設は、児童生徒や一般市民の学びの場、スポーツを楽しみ健康で充実した生活を送るため、欠かせない施設となっています。施設が多いと経年劣化による修繕や草刈りなど維持管理は欠かせません。より安心安全に長く利用できるよう継続的な対策をよろしくお願います。 教育現場では、個々の児童生徒に応じた、ゆとりを持って子どもたちに寄り添える多様な指導が求められています。教員の体力的、精神的負担を軽減していくための人的な対策強化をお願いします。 　関係者及び教育委員会の皆様には、限られた予算や人員の中で、各種事業に尽力されています。大変、御苦労様でした。今後も、たゆまぬ努力を積み重ね、事業実施に係る課題に取り組んでいただきますようお願いします。 ○令和５年度は、コロナ禍と共存しながらも通常の生活に戻ってきている部分があったと思います。特に、長い間のマスク生活で人の表情が分かりづらいものがありました。学校教育では、人づくり、学校・園づくり、ふるさとづくりの三つの重点事業を下に子どもたちへの教育が、創意と工夫を凝らして推進されたことに対して、関係者の皆様の努力に深く敬意を表します。学校教育も急速な情報化や技術革新、グローバル化の進展等により、学校現場では、数多くの研修や情報共有が行われてきました。機器の取扱いに慣れることも大切ですが、何よりも目の前にいる子どもたちの様子をしっかり見て、寄り添う姿勢で接してほしいと願っています。教員のワークライフバランスを考えた働き方改革の推進にも、力を発揮してほしいと願っています。社会教育では、非常に多岐にわたって事業がなされており、分野が広く、それぞれの担当者の知恵と実行力が成果となって、現れていると感じています。限られた予算の中で、これからも、最大限の成果が達成できますよう期待しています。

学識経験者（５０音順　敬称略）

佐藤富夫、谷　宜憲

〈参考〉

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）
第２６条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第１項の規定によ教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第４項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検と評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

令和６年度（令和５年度対象）
淡路市教育委員会点検評価報告書

編集・発行　兵庫県淡路市生穂新島８番地
淡路市教育委員会事務局
教育総務課　総務係
電話 0799-64-2537（直通）